

# 自治医科大学看護師特定行為研修センター年次報告



2018 年度

2020 年 3 月

自治医科大学看護師特定行為研修センター

Jichi training center for nurse designated procedures (J-ENDURE)

# 目 次

## I 看護師特定行為研修センターの事業概要

1. 看護師特定行為研修センター概要……………1
2. 看護師特定行為研修センター関連委員会……………2
3. 看護師特定行為研修センター教職員概要……………3
4. 看護師特定行為研修センター協力施設概要……………3
5. 看護師特定行為研修センターの主な取り組み等……………4
6. 入講生、修了生の概要……………5

## II 看護師特定行為研修センター活動報告

- 1) 教育報告……………8
- 2) 研究報告……………60

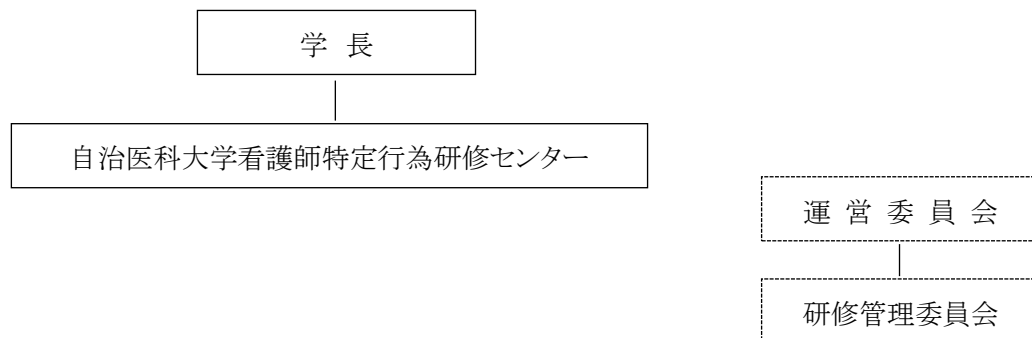
## **I 看護師特定行為研修センターの事業概要**

## 1. 特定行為研修センター概要

特定行為研修センターは、自治医科大学が保健師助産師看護師法(昭和 23 年法律第 203 号)第 37 条の 2 に基づく指定研修機関として特定行為研修を適切に実施するため設置された(自治医科大学看護師特定行為研修センター設置規程 昭和 27 年規程第 59 号)。

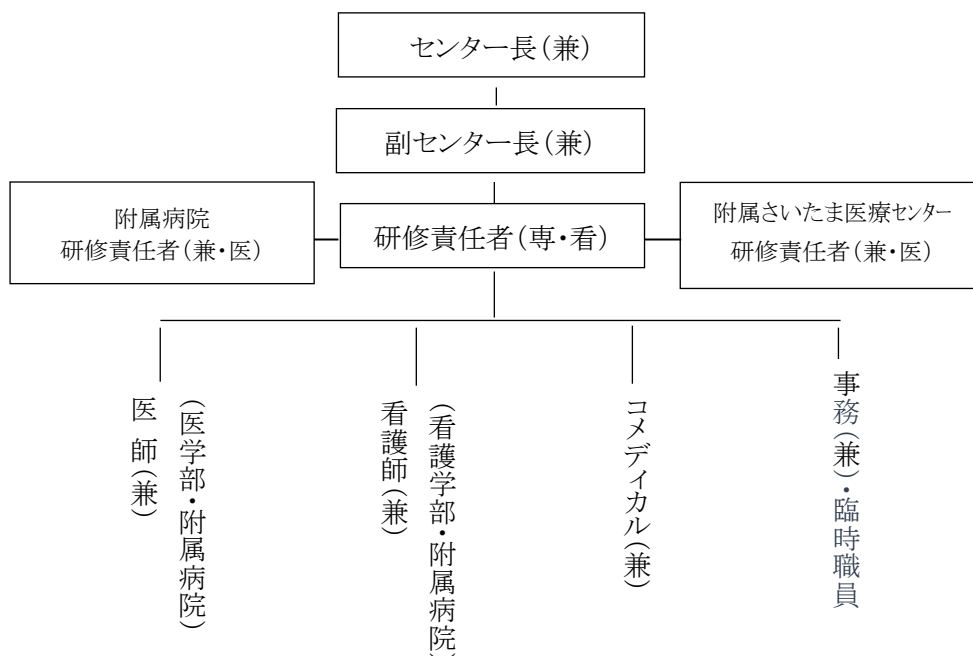
### 組織体制

大学における位置付けは、大学の組織とし、学長の直属機関とする。  
センターの運営を円滑に行うため「運営委員会」を設置する。



### センターの構成員

センター長、副センター長、研修責任者(うち 1 名は専従)、センター員で構成する。



※附属病院とは、附属病院と附属さいたま医療センターを示す

## 2. 特定行為研修センター関連委員会

特定行為研修センターは、下記の委員会を設置し、管理・運営や教育・評価内容の妥当性などを検討し、審議している。

- ・特定行為研修運営委員会(2ヶ月に1回の年6回開催)
- ・特定行為研修管理委員会(年2回、9月及び3月に開催)
- ・特定行為研修安全管理委員会(必要時 臨時開催)
- ・科目担当者会議(年11回)

### 1) 特定行為研修運営委員会

特定行為運営委員会の構成員はセンター長を中心に16名で構成され、主にセンターの運営を円滑に行うための以下の事項を審議する。

- (1) 施設及び設備の整備に関すること
- (2) 適切な指導体制の確保に関すること
- (3) 医療に関する安全管理のための体制の確保に関すること
- (4) 規程等の整備に関すること
- (5) 自治医科大学看護師特定行為研修センター運営委員会及び自治医科大学看護師特定行為研修管理委員会に関すること
- (6) その他、特定行為研修の実施に関する必要なこと

### 2) 特定行為研修管理委員会

特定行為研修管理委員会には外部委員を含め15名で構成され、以下の審議を行う。

- (1) 特定行為区分ごとの特定行為研修計画の策定に関すること
- (2) 2つ以上の特定行為区分について、特定行為研修を行う場合の特定行為研修の相互間の調整に関すること
- (3) 受講者の履修状況の管理に関すること
- (4) 修了の際の評価などに関すること
- (5) その他、特定行為研修の実施及び管理に関すること

### 3) 特定行為研修安全管理委員会

特定行為研修センター専従研修責任者の招集により、事故等報告書が提出された場合に、研修責任者ならびに該当科目の指導者等の関係者で構成され、安全管理に関する審議を行う。

### 4) 科目担当者会議

研修生の学習進捗状況や教育内容に関する情報の共有を行う。科目担当者会議は看護学部および看護師特定行為研修センター教員を中心に特定行為研修に関わる看護学系教員で構成されている。

### 3. 特定行為研修センターの教員概要

#### 1) 共通科目

共通科目では指導者として 26 名、指導補助者として 15 名が教育に関わった。

年度	指導者	指導補助者
2018 年度	26 名	15 名

#### 2) 区分別科目

区分別科目では指導者として 75 名、指導補助者として 48 名が教育に関わった。客観的臨床能力試験の外部評価者は、5 名であった。

年度	指導者	指導補助者
2018 年度	75 名	48 名

### 4. 協力施設の概要

区分別科目の実習では、条件を満たす受講生の自施設を協力施設として申請し、自施設で実習を行うことができる研修体制・指導体制を調整した。

条件: 指導者となる医師の確保(臨床研修医指導者講習会受講歴有)、実習期間の症例数の確保(半期 10 症例以上)、医療安全体制の連携、学習環境の確保など

年度	協力施設	指導者
2018 年度	36 施設	122 名

## 5. 特定行為研修センターの主な取り組み等

特定行為研修センターは、2015年8月5日から指定研修機関として以下の研修目的・目標を掲げ、19の特定行為区分の厚生労働省の指定を受け、自治医科大学看護師特定行為研修を行っている。

### 研修目的

地域医療及び高度医療の現場において、医療安全を配慮しつつ、高度な臨床実践能力を発揮し、自己研鑽を継続しながらチーム医療のキーパーソンとして機能できる看護師を育成する。

### 研修目標

- 1) 地域医療及び高度医療の現場において、迅速かつ包括的なアセスメントを行い、当該特定行為を行う上での知識、技術及び態度の基礎的能力を養う。
- 2) 地域医療及び高度医療の現場において、患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実行できる基礎的能力を養う。
- 3) 地域医療及び高度医療の現場において、問題解決にむけて、多職種と効果的に協働できる能力を養う。
- 4) 自らの看護実績を見直しつつ、標準化する能力を養う。

2018年度は、昨年度までと同様に半期(4月開始、10月開始)ごとに定数30名(各特定行為区分の定数は、実習期間ごとに上限5名)の受講生を募集した。募集の広報活動は看護学部、看護学研究科の教育に関連している病院、施設等を中心に実施するとともに、都道府県の看護協会にも広報用のリーフレット配布を行った。また、大学附属病院である2施設には、看護部を通じて募集案内を行った。看護系雑誌や医学系新聞等への募集記事掲載も継続して実施した。大学内へは、半期ごとの入講式ならびに修了式に関して学内広報誌にて周知した。

教育活動としては、講義と演習のほとんどでICT(Information Communication Technology)を用いた。学習支援システムとしてMoodleとMaharaを連動させているため、2018年度はそのバージョンアップなどのメンテナンスを行い研修生が受講しやすい環境を再設計した。実習においては、集合研修を最小限にし、共通科目の基礎実習のみ大学または附属両病院にて行い、区分別科目では可能な限り受講生の自施設を協力施設として申請し、就労継続しながらの実習を可能としている。附属両病院の実習環境の整備としては、電子カルテ等の権限調整、各診療科への協力依頼、指導者・指導補助者への実習指導の依頼説明など附属両病院の看護部や研修責任者と協議・連携しながら行った。

研修開始から3年が経過し、修了生も増える中で、PICCなどの区分別科目にて研修修了後のフォローアップ研修の機会を設けた。また、これまでと同様に、修了生への特定行為制度に関する情報提供、修了生間の情報提供、フォローアップの研修企画の案内、研修生の学会や依頼公演等のサポートを行った。

そのほか、他の指定研修機関の申請準備や研修教育の質問等に関しては、積極的に対応した。また、各種学会の学術集会やシンポジウム、都道府県行政からの説明会などの講演依頼は受けるようにし、修了生の講演依頼の推薦なども行い、本研修制度の普及に最大限努めた。さらに、修了生の活動の実態や評価につながる調査研究、指定研修機関の実態や課題への取り組みのための調査研究にも取り組んだ。

研修に関わる指導者の養成を行うために、第1回看護師特定行為研修指導者講習会を開催し、27名が講習を修了した。

## 6. 入講生、修了生の概要

2018年度はのべ64名が入講した。そのうち再入講者は7名であった。(※再入講者とは2年の在籍期間を終え、再度入講した研修生である)

### 1) 入講生の概要

2018年度は4月期31名、10月期33名が入講した。入講生の所属施設概要ならびに年代および性別を表1・表2に示す。入講生の所属施設は「その他の病院」が35名と最も多く、次いで「へき地医療拠点病院」が7名であった。「訪問看護ステーション」からは6名が入講した。入講生の年代は30代～40代が7割を越え、また全体の7割以上が女性であった。

入講時の区分別科目受講希望状況を表3に示す。「栄養・水分管理に係る薬剤投与関連」「創傷管理関連」「動脈血ガス分析関連」の受講希望が多かった。

表1 2018年度の入講生の所属施設種別

施設種別	4月期	10月期	合計 (名)
自治医科大学附属病院	5	5	10
自治医科大学附属さいたま医療センター	0	0	0
看護学研究科	1	0	1
訪問看護ステーション	2	4	6
へき地診療所	1	0	1
へき地医療拠点病院	2	5	7
その他の病院	19	16	35
その他(障害者施設、特養、診療所、NPO団体)	1	3	4
合計	31	33	64

表2 2018年度の入講生の年代および性別

年代	性別	4月期	10月期	男女別計	計	
20代	男性	1	0	1	3	4.7%
	女性	2	0	2		
30代	男性	2	5	7	20	31.2%
	女性	8	5	13		
40代	男性	2	5	7	28	43.8%
	女性	7	14	21		
50代	男性	0	0	0	13	20.3%
	女性	9	4	13		
合計	男性	5	10	15 (23.4%)	64	100.0%
	女性	26	23	49 (76.6%)		



表3 2018年度の入講生の区分別科目希望数

※入講時のデータであり、入講後の取り消し及び追加等は含まない

区分別科目名	4月期	10月期	計
呼吸器関連（気道確保に係るもの）関連	6	4	10
呼吸器関連（人工呼吸療法に係るもの）関連	6	8	14
呼吸器関連（長期呼吸療法に係るもの）関連	9	6	15
循環器関連	0	1	1
胸腔ドレーン管理関連	0	0	0
腹腔ドレーン管理関連	0	0	0
ろう孔管理関連	4	6	10
栄養に係るカテーテル管理関連(中心静脈カテーテル関連)	0	3	3
栄養に係るカテーテル管理関連(P I C C関連)	2	8	10
創傷管理関連	9	9	18
創部ドレーン管理関連	1	2	3
動脈血ガス分析関連	9	8	17
透析管理関連	0	0	0
栄養・水分管理に係る薬剤投与関連	12	10	22
感染に係る薬剤投与関連	3	6	9
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	6	2	8
循環動態に係る薬剤投与関連	1	0	1
精神・神経症状に係る薬剤投与関連	9	1	10
皮膚損傷に係る薬剤投与関連	2	0	2
合計	81	74	155

## 2) 修了生の概要

当センターの研修では、共通科目と区分別科目を受講し最短でも1年間の受講が必要となる。2018年9月の修了生は31名、2019年3月修了生は45名であった。区分別科目修了数を表4に示す。

表4 2018年度の区分別科目修了数

区分別科目名	9月	3月	計
呼吸器関連（気道確保に係るもの）関連	5	8	13
呼吸器関連（人工呼吸療法に係るもの）関連	7	6	13
呼吸器関連（長期呼吸療法に係るもの）関連	9	13	22
循環器関連	1	1	2
胸腔ドレーン管理関連	1	0	1
腹腔ドレーン管理関連	4	1	5
ろう孔管理関連	9	8	17
栄養に係るカテーテル管理関連(中心静脈カテーテル関連)	6	1	7
栄養に係るカテーテル管理関連(PICC関連)	4	5	9
創傷管理関連	7	11	18
創部ドレーン管理関連	2	2	4
動脈血ガス分析関連	8	11	19
透析管理関連	0	0	0
栄養・水分管理に係る薬剤投与関連	10	17	27
感染に係る薬剤投与関連	2	6	8
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	3	6	9
循環動態に係る薬剤投与関連	4	1	5
精神・神経症状に係る薬剤投与関連	2	6	8
皮膚損傷に係る薬剤投与関連	0	2	2
合計	84	105	189

## II 看護師特定行為研修センター活動報告

## 1)教育内容

### 4 月期共通科目

#### ① 臨床推論/フィジカルアセスメント I

##### a. スタッフ

指導者	松村正己 中村剛史 鈴木義彦 村上礼子
指導補助者	八木街子

##### b. 学習目的

多様な臨床現場において対象者が持つ問題を改善又は解決するために、臨床推論の概念や症状ごとの臨床推論過程(フィジカルアセスメント含む)について学修する。

##### c. 3)時間数

34 時間(17 回)

##### d. 研修方法

講義(e ラーニング)

##### e. 評価方法

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

##### f. 科目取得状況

30/30 名

#### ② 臨床推論/フィジカルアセスメント II

##### a. スタッフ

指導者	松村正己 中村剛史 鈴木義彦 村上礼子
指導補助者	八木街子

##### b. 学習目的

対象者が持つ問題を改善又は解決するための診断プロセス・臨床推論に必要な各種臨床検査、画像検査の原理原則について学修する。

##### c. 時間数

26 時間(13 回)

##### d. 研修方法

講義(e ラーニング)

##### e. 評価方法

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

##### f. 科目取得状況

30/30 名

### ③ 病態生理／疾病論 I

#### a. スタッフ

指導者	倉科智行
指導補助者	春山早苗 平尾温司 関山友子

#### b. 学習目的

解剖学、生理学および病態学の原則を理解し、年齢や状況に応じた病態の変化や治療の特性を包括的かつ迅速に判断出来るよう必要な知識と技術を学修する。

#### c. 時間数

42 時間 (21 回)

#### d. 研修方法

講義 (e ラーニング)

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

30/30 名

### ④ 病態生理／疾病論 II

#### a. スタッフ

指導者	倉科智行
指導補助者	春山早苗 平尾温司 関山友子

#### b. 学習目的

臨床場面において日常的によくみられる主要疾患の病態および治療を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、病態の変化や疾患および必要となる治療を包括的に迅速に判断出来るよう必要な知識と技術を学修する。

#### c. 時間数

54 時間 (27 回)

#### d. 研修方法

講義 (e ラーニング)

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

28/30 名

## ⑤ 臨床薬理学

### a. スタッフ

指導者	大塚公一郎 村上礼子
指導補助者	江角伸吾 須藤俊明

### b. 学習目的

臨床薬理学の基礎的知識を学習する。

薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理の向上を図るための知識と技術を学ぶ。

代表的な薬物療法について理解し、臨床場面で安全に使用するのに必要な知識を学習する。

### c. 時間数

42 時間 (21 回)

### d. 研修方法

講義 (e ラーニング)

### e. 評価方法

単元ごとに事後テストを行い、100 点満点をもって、次の単元に進む。

最終単元修了後、修了試験(筆記試験)を受験する。修了試験は 100 点満点で、60 点以上の獲得をもって修了を設定し、科目の単位が獲得できる。

### f. 科目取得状況

28/30 名

## ⑥ 医療安全学

### a. スタッフ

指導者	新保昌久 遠山信幸
指導補助者	川上勝 関山友子 浅田義和 寺山美華 亀森康子

### b. 学習目的

安全で質の高い特定行為を実施する上で必要な知識や考え方を身につける。

### c. 時間数

24 時間 (12 回)

### d. 研修方法

講義 (e ラーニング)、演習

### e. 評価方法

筆記試験(最終回)

小テストまたは課題レポート(各回)

### f. 科目取得状況

30/30 名

## ⑦ 特定行為と手順書

### a. スタッフ

指導者	新保昌久 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 関山友子 大柴幸子

### b. 学習目的

多様な臨床場面において、特定行為関連法規を踏まえ、特定行為の手順書を作成・活用・評価するための実践課程を理解し、必要な特定行為を安全に実践する能力を学修する。

### c. 時間数

30 時間(15 回)

### d. 研修方法

講義(e ラーニング)

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

29/30 名

## ⑧ 特定行為と基礎実習 I

### a. スタッフ

指導者	松村正己 中村剛史 鈴木義彦 大塚公一郎 倉科智行 村上礼子
指導補助者	春山早苗 鈴木美津枝 川上勝 平尾温司 八木街子 関山友子 江角伸吾 浅田義和 須藤俊明

### b. 学習目的

チーム医療として実践するために必要な基礎的な臨床診断プロセスや診察技術について演習・実習を通して修得する。

### c. 時間数

38 時間(演習 10 回(うち試験1回)+実習 3 日間)

### d. 研修方法

講義(e ラーニング)

### e. 評価方法

e ラーニング演習の最終回は主に展開してきた事例検討の試験を行う。  
集合実習の事例展開の最終日に観察評価を行う。合格できるまで試験を受ける。

### f. 科目取得状況

29/29 名

## ⑨ 特定行為基礎実習Ⅱ

### a. スタッフ

指導者	松村正己 石川鎮清 畠山修司 松山泰 石川由紀子 山本祐 中村剛史 新保昌久 永谷勝也 釜田康行 竹澤敬人 山内浩義 遠山信幸 菅原斉 藤田英雄 崎山快夫 真嶋浩聡 賀古真一 原一雄 小竹茂 森下義幸 小山信一郎 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 八木街子 亀森康子

### b. 学習目的

チーム医療の中で安全に特定行為を実践するための診察技術や臨床診断の基礎的能力を習得する。

### c. 時間数

25 時間(7 日間)

### d. 研修方法

実習

### e. 評価方法

観察評価:病棟・外来実習中に対象者の了解を経て、身体診察、医療面接、多職種との調整などの評価基準の確認を指導者より受ける。

### f. 科目取得状況

29/29 名



#### 4 月期区分別科目

##### ⑩ 呼吸器関連 気道確保 I

g. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 川岸利臣 大塚祐史 間藤卓 米川力 太田真 富永経一郎 山黒友丘 渡邊伸貴 新庄貴文 布宮伸 方山真朱 小山寛介 村上礼子
指導補助者	八木街子 古島幸江 茂呂悦子 八巻均 谷島雅子 荒井和美 八木橋智子 草浦理恵

h. 学習目的

チーム医療の中で経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

i. 時間数

8 時間(4 回)

j. 研修方法

講義(e ラーニング)

k. 評価方法

筆記試験

l. 科目取得状況

5/5 名

##### ⑪ 呼吸器関連 気道確保 II

g. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 川岸利臣 大塚祐史 間藤卓 米川力 太田真 富永経一郎 山黒友丘 渡邊伸貴 新庄貴文 布宮伸 方山真朱 小山寛介 村上礼子
指導補助者	八木街子 古島幸江 茂呂悦子 八巻均 谷島雅子 荒井和美 八木橋智子 草浦理恵

h. 学習目的

チーム医療の中で安全にバッグバルブマスク(BVM)を用いた用手換気および経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

i. 時間数

15 時間(5 日間)

j. 研修方法

実習

k. 評価方法

観察試験:病棟実習中に対象者の了解を得て、身体診察、医療面接、他職種との調整などに関する評価基準をもとに指導医より確認をうける。 実技試験 OSCE

l. 科目取得状況

5/5 名

## ⑫ 呼吸器関連 人工呼吸療法 I

### a. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 川岸利臣 間藤卓 米川力 太田真 富永経一郎 山黒友丘 渡邊伸貴 新庄貴文 布宮伸 方山真朱 小山寛介 村上礼子
指導補助者	八木街子 古島幸江 八木橋智子 草浦理恵 茂呂悦子 八巻均 谷島雅子 荒井和美

### b. 学習目的

チーム医療の中で人工呼吸療法における人工呼吸器モードの設定条件の変更および NPPV(非侵襲的陽圧換気療法)時のモード設定条件の変更を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

チーム医療の中で人工呼吸療法における人工呼吸管理下の鎮痛・鎮静管理、人工呼吸器からの離脱を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

### c. 時間数

39 時間(20 回)

### d. 研修方法

講義(e ラーニング)

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

7/7 名

## ⑬ 呼吸器関連 人工呼吸療法 II

### g. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 川岸利臣 間藤卓 米川力 太田真 富永経一郎 山黒友丘 渡邊伸貴 新庄貴文 布宮伸 方山真朱 小山寛介 村上礼子
指導補助者	八木街子 古島幸江 八木橋智子 草浦理恵 茂呂悦子 八巻均 谷島雅子 荒井和美

### h. 学習目的

チーム医療の中で安全に人工呼吸器モードの設定条件の変更および NPPV(非侵襲的陽圧換気療法)時のモード設定条件の変更を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

チーム医療の中で安全に人工呼吸管理下の鎮静管理、人工呼吸器からの離脱を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

### i. 時間数

24 時間(10 日)

### j. 研修方法

演習、実習

### k. 評価方法

観察試験:病棟実習中に対象者の了解を得て、人工呼吸療法に関する評価基準をもとに指導医より評価をうける

1. 科目取得状況

7/7 名

⑭ 呼吸器関連 長期呼吸療法

a. スタッフ

指導者	佐々木徹 小野滋 馬場勝尚 讃井将満 塩塚潤二 川岸利臣 布宮伸 方山真朱 小山寛介 村上礼子
指導補助者	里光やよい 八木街子 黒田光恵 茂呂悦子 八木橋智子 草浦理恵

b. 学習目的

チーム医療の中で安全に気管カニューレの交換を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

c. 時間数

21 時間(講義 5 回+実習 3 日間)

d. 研修方法

講義、実習

e. 評価方法

筆記試験、実技試験 (OSCE)

観察試験:病棟実習中に対象者の了解を得て、気管カニューレの交換に関する評価基準をもとに指導医より確認をうける。

f. 科目取得状況

9/9 名

⑮ 循環器管理関連(一時的ペースメーカー・PCPS 等) I

g. スタッフ

指導者	百村伸一 藤田英雄 坂倉建一 和田浩 讃井将満 塩塚潤二 川岸利臣 星出聡 相澤啓 村上礼子
指導補助者	八木橋智子 草浦理恵 小久保領 八木街子 神山淳子

h. 学習目的

一時的ペースメーカー安全に操作及び管理、抜去するための基本的な知識および方法を学習する。

i. 時間数

22 時間(11 回)

j. 研修方法

講義(e ラーニング)

k. 評価方法

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

l. 科目取得状況

1/1 名

⑯ 循環器管理関連(一時的ペースメーカー・PCPS 等) II

a. スタッフ

指導者	百村伸一 藤田英雄 坂倉建一 和田浩 讃井将満 塩塚潤二 川岸利臣 星出聡 相澤啓 村上礼子
指導補助者	八木橋智子 草浦理恵 小久保領 八木街子 神山淳子

b. 学習目的

一時的ペースメーカー安全に操作及び管理、抜去するための基本的な知識および方法・態度を習得する。

c. 時間数

24 時間(10 日間)

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察評価

f. 科目取得状況

1/1 名

## ⑰ 胸腔ドレーン管理関連 I

### a. スタッフ

指導者	遠藤俊輔 坪地宏嘉 手塚憲志 相澤啓 村上礼子
指導補助者	梶原絢子 八木街子

### b. 学習目的

胸腔ドレーンを安全に、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法を学習する  
胸腔ドレーン低圧胸腔内持続吸引中の設定・変更を安全に、かつ適切に実施するための基本的な知識・方法を学習する。

### c. 時間数

18 時間(9 回)

### d. 研修方法

講義(e ラーニング)

### e. 評価方法

最終単元において、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

### f. 科目取得状況

1/1 名

## ⑱ 胸腔ドレーン管理関連 II

### a. スタッフ

指導者	遠藤俊輔 坪地宏嘉 手塚憲志 相澤啓 村上礼子
指導補助者	梶原絢子 八木街子

### b. 学習目的

胸腔ドレーンを安全、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法・態度を学習する。  
低圧胸腔内持続吸引装置の安全、かつ適切な設定調整のための基本的な手技・態度を学習する。

### c. 時間数

12 時間(5 日間)

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

観察評価

### f. 科目取得状況

1/1 名

⑱ 腹腔ドレーン管理関連 I

a. スタッフ

指導者	力山敏樹 宮倉安幸 齊藤正昭 倉科憲太郎 井上賢之 村上礼子
指導補助者	大島美津子 鈴木美津枝

b. 学習目的

腹腔ドレーンを安全に、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法を学習する。

c. 時間数

10 時間(5 回)

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

最終単元において、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

f. 科目取得状況

4/4 名

⑳ 腹腔ドレーン管理関連 II

a. スタッフ

指導者	力山敏樹 宮倉安幸 齊藤正昭 倉科憲太郎 井上賢之 村上礼子
指導補助者	大島美津子 鈴木美津枝

b. 学習目的

腹腔ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および手技・態度を習得する。

c. 時間数

12 時間(5 日間)

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

観察評価:病棟実習では指導者から観察評価を受ける。

f. 科目取得状況

4/4 名

## 21 ろう孔管理 I

### a. スタッフ

指導者	細谷好則 倉科憲太郎 井上賢之 小野滋 馬場勝尚 力山敏樹 宮倉安幸 加藤高晴 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 清水みどり 田口深雪 黒田光恵 佐藤敏子 大島美津子

### b. 学習目的

胃ろう, 腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを安全に交換・管理するための基礎的な知識および方法を学習する。

### c. 時間数

10 時間(5 回)

### d. 研修方法

講義(e ラーニング)

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

9/9 名

## 22 ろう孔管理 II

### a. スタッフ

指導者	細谷好則 倉科憲太郎 井上賢之 小野滋 馬場勝尚 力山敏樹 宮倉安幸 加藤高晴 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 清水みどり 田口深雪 黒田光恵 佐藤敏子 大島美津子

### b. 学習目的

胃ろう, 腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを交換および管理するための基本的な知識, 判断と手技を修得する。

### c. 時間数

15 時間(5 日間)

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

OSCE

観察評価: 外来・病棟実習中に対象者の了解を経て, カテーテル・ボタン交換に関わる評価基準の確認を指導者より受ける。

### f. 科目取得状況

9/9 名

### 23 ろう孔管理(膀胱ろうカテーテルの管理)Ⅲ

#### a. スタッフ

指導者	藤村哲也 黒川真輔 宮川友明 鷺野聡 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 田村敦子 田口深雪 大島美津子

#### b. 学習目的

1. ろう孔造設に関連する病態からの確に判断するための根拠と方法を学習する。
2. 膀胱ろうカテーテルを安全に管理するための基本的な知識および方法を学習する。

#### c. 時間数

10 時間(5 回)

#### d. 研修方法

講義(e ラーニング)

#### e. 評価方法

試験(毎回の事後テストの内容を筆記試験に充当させる)

評価の時期:講義終了後

#### f. 科目取得状況

9/9 名

### 24 ろう孔管理(膀胱ろうカテーテルの管理)Ⅳ

#### a. スタッフ

指導者	藤村哲也 黒川真輔 宮川友明 鷺野聡 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 田村敦子 田口深雪 大島美津子

#### b. 学習目的

ろう孔管理Ⅲで学んだ知識とプロトコールに基づき、ろう孔管理技術の基本を学習する。

#### c. 時間数

15 時間(5 日間)

#### d. 研修方法

実習

#### e. 評価方法

OSCE

観察評価:外来実習中に対象者の了解を得て、評価基準の確認を指導者より受ける。

#### f. 科目取得状況

9/9 名



## 25 栄養に係るカテーテル管理:中心静脈カテーテルの抜去 I

### a. スタッフ

指導者	相澤啓 讃井将満 塩塚潤二 川岸利臣 村上礼子
指導補助者	八木街子 神山淳子 八木橋智子

### b. 学習目的

中心静脈カテーテルの目的・管理・リスクを学び、安全に中心静脈カテーテルを抜去する方法を学習する。

### c. 時間数

6 時間(3 回)

### d. 研修方法

講義(e ラーニング)

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

6/6 名

## 26 栄養に係るカテーテル管理:中心静脈カテーテルの抜去 II

### a. スタッフ

指導者	相澤啓 讃井将満 塩塚潤二 川岸利臣 村上礼子
指導補助者	八木街子 神山淳子 八木橋智子

### b. 学習目的

中心静脈カテーテル抜去における評価と手技を修得する。

### c. 時間数

12 時間(5 日間)

### d. 研修方法

実習

### e. 評価方法

観察評価(DOPS)を用いて評価する。

### f. 科目取得状況

6/6 名

## 27 PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)の挿入 I

### a. スタッフ

指導者	大嶺謙 賀古真一 仲宗根秀樹 菊地美里 佐藤美樹 布宮伸 鯉沼俊貴 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 横山由美 大木海美

### b. 学習目的

PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)挿入の根拠と方法を学習する。

### c. 時間数

6 時間(3 回)

### d. 研修方法

講義(e ラーニング)

### e. 評価方法

最終回に e-learning による筆記試験

### f. 科目取得状況

6/6 名

## 28 PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)の挿入 II

### a. スタッフ

指導者	大嶺謙 賀古真一 仲宗根秀樹 菊地美里 佐藤美樹 布宮伸 鯉沼俊貴 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 横山由美 大木海美

### b. 学習目的

PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)を安全に挿入・管理するための基本的な知識および技術・態度を修得する。

### c. 時間数

15 時間(5 日間)

### d. 研修方法

実習

### e. 評価方法

3 日目午前に OSCE による実技評価、最終日まで観察評価

### f. 科目取得状況

4/6 名

## 29 創傷管理関連 褥瘡 I

### a. スタッフ

指導者	前川武雄 出光俊郎 川瀬正昭 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 本田芳香 飯塚由美子 太田信子 大島美津子

### b. 学習目的

褥瘡および創傷の病態からの確に判断するための根拠と方法を学習する。

### c. 時間数

27 時間(14 回)

### d. 研修方法

講義(e ラーニング)

### e. 評価方法

27 時間(14 回)

### f. 科目取得状況

7/7 名

## 30 創傷管理関連 褥瘡 II

### a. スタッフ

指導者	前川武雄 出光俊郎 川瀬正昭 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 本田芳香 飯塚由美子 太田信子 大島美津子

### b. 学習目的

チーム医療の中で安全に創傷管理を実践するための慢性期褥瘡治療管理および陰圧閉鎖療法の方法について実習を通して習得する。

### c. 時間数

45 時間(10 日間)

### d. 研修方法

講義(e ラーニング)、実習

### e. 評価方法

OSCE(壊死組織除去のみ)、観察評価((壊死組織除去、陰圧閉鎖療法)

### f. 科目取得状況

7/7 名

### 31 創部ドレーン管理関連 I

a. スタッフ

指導者	山口敦司 堀大治郎 倉科憲太郎 井上賢之 藤田崇史 相澤啓 手塚憲志 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 大島美津子

b. 学習目的

創部ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および方法を学習する

c. 時間数

6 時間 (3 回)

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

2/2 名

### 32 創部ドレーン管理関連 II

a. スタッフ

指導者	山口敦司 堀大治郎 倉科憲太郎 井上賢之 藤田崇史 相澤啓 手塚憲志 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 大島美津子

b. 学習目的

創部ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および方法・態度を修得する。

c. 時間数

9 時間 (3 日間)

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

観察評価

f. 科目取得状況

2/2 名

### 33 動脈血液ガス分析 I

a. スタッフ

指導者	讃井将満 大塚祐史 間藤卓 米川力 太田真 富永経一郎 山黒友丘 渡邊伸貴 新庄貴文 布宮伸 小山寛介 鯉沼俊貴 村上礼子
指導補助者	八木橋智子 谷島雅子 鈴木美津枝

b. 学習目的

動脈血液を安全に採血し、留置ならびに管理するための基本的な知識および方法を学習する。

c. 時間数

16 時間(8 回)

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

8/8 名

### 34 動脈血液ガス分析 II

a. スタッフ

指導者	讃井将満 大塚祐史 間藤卓 米川力 太田真 富永経一郎 山黒友丘 渡邊伸貴 新庄貴文 布宮伸 小山寛介 鯉沼俊貴 村上礼子
指導補助者	八木橋智子 谷島雅子 鈴木美津枝

b. 学習目的

動脈血液を安全に採血するための基本的な知識および技術・態度を修得する。

c. 時間数

15 時間(5 日間)

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

実技試験(OSCE)・観察評価

f. 科目取得状況

8/8 名

### 35 透析管理 I

a. スタッフ

指導者	森下義幸 大河原晋 平井啓之 宮澤晴久 齋藤修 村上礼子
指導補助者	佐竹晃 内田隆行 松岡諒 鈴木美津枝

b. 学習目的

血液透析器又は血液透析濾過器を安全に操作及び管理を行うための基本的な知識および方法を学習する

c. 時間数

16 時間 (8 回)

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

0/0 名

### 36 透析管理 II

a. スタッフ

指導者	森下義幸 大河原晋 平井啓之 宮澤晴久 齋藤修 村上礼子
指導補助者	佐竹晃 内田隆行 松岡諒 鈴木美津枝

b. 学習目的

急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理するための基本的な知識、判断と手技を修得する

c. 時間数

12 時間 (5 日間)

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

観察評価

f. 科目取得状況

0/0 名

### 37 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連:持続点滴中の高カロリー輸液投与量の調整 I

#### a. スタッフ

指導者	石橋俊 倉科憲太郎 賀古真一 仲宗根秀樹 菊地美里 佐藤美樹 村上礼子
指導補助者	浜端賢次 八木街子 古内三基子 釜井聡子 荒川昌史 中川温美 長谷部 忠史

#### b. 学習目的

栄養評価を用いて低栄養状態がアセスメントでき、高カロリー輸液の適応と副作用・リスクについて学習する。

#### c. 時間数

10 時間 (5 回)

#### d. 研修方法

講義(e ラーニング)

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

10/10 名

### 38 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連:持続点滴中の高カロリー輸液投与量の調整 II

#### a. スタッフ

指導者	石橋俊 倉科憲太郎 賀古真一 仲宗根秀樹 菊地美里 佐藤美樹 村上礼子
指導補助者	浜端賢次 八木街子 古内三基子 釜井聡子 荒川昌史 中川温美 長谷部 忠史

#### b. 学習目的

低栄養状態と高カロリー輸液のリスクをアセスメントし、適切な高カロリー輸液の選択と調整を学習する。

#### c. 時間数

9 時間 (3 日間)

#### d. 研修方法

演習、実習

#### e. 評価方法

観察評価 (DOPS を用いて評価する)

#### f. 科目取得状況

10/10 名

### 39 脱水と補液(脱水の程度の判断と補液による補正) I

a. スタッフ

指導者	倉科憲太郎 森下義幸 大河原晋 平井啓之 宮澤晴久 村上礼子
指導補助者	浜端賢次 八木街子 古内三基子 釜井聡子 荒川昌史 中川温美 長谷部忠史

b. 学習目的

脱水のアセスメントを行い、脱水の程度に合わせた補液の補正を学習する。

c. 時間数

10 時間(5 回)

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

10/10 名

### 40 脱水と補液(脱水の程度の判断と補液による補正) II

a. スタッフ

指導者	倉科憲太郎 森下義幸 大河原晋 平井啓之 宮澤晴久 村上礼子
指導補助者	浜端賢次 八木街子 古内三基子 釜井聡子 荒川昌史 中川温美 長谷部忠史

b. 学習目的

脱水の適切な評価ができ、脱水の程度に応じた補液による補正を学習する。

c. 時間数

9 時間(3 日間)

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察評価(DOPS)

f. 科目取得状況

10/10 名



#### 41 感染徴候時の臨時薬剤の投与 I (特定行為:感染に係る薬剤投与関連)

a. スタッフ

指導者	森澤雄司 小山信一郎 市橋光 村上礼子
指導補助者	野々山未希子 八木街子 渡辺美智代 大友慎也 佐々木一雅 水上由美子 立石直人 長谷部忠史

b. 学習目的

感染徴候時に、身体所見および検査結果から総合的に病状を判断し、効果的な臨時薬剤の投与を行う実践的知識と技術を習得する。

c. 時間数

39 時間(20 回)

d. 研修方法

講義(e ラーニング)、演習

e. 評価方法

筆記試験(中間、最終の 2 回行う)

f. 科目取得状況

2/2 名

#### 42 感染徴候時の臨時薬剤の投与 II (特定行為:感染に係る薬剤投与関連)

a. スタッフ

指導者	森澤雄司 小山信一郎 市橋光 村上礼子
指導補助者	野々山未希子 八木街子 渡辺美智代 大友慎也 佐々木一雅 水上由美子 立石直人 長谷部忠史

b. 学習目的

感染徴候時に、身体所見および検査結果から総合的に病状を判断し、効果的な臨時薬剤の投与を行う実践的知識と技術を習得する。

c. 時間数

24 時間(10 日間)

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

実習の観察評価

f. 科目取得状況

2/2 名

#### 43 インスリン投与量の調整 I

a. スタッフ

指導者	石橋俊 岡田健太 原一雄 吉田昌史 村上礼子
指導補助者	長谷川直人 馬場千恵子 鈴木美津枝 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 羽鳥智子 長谷部忠史

b. 学習目的

患者特性に応じた血糖コントロールを行うためのインスリン投与量の調整の根拠と方法を理解する。

c. 時間数

24 時間(12 回)

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

3/3 名

#### 44 インスリン投与量の調整 II

a. スタッフ

指導者	石橋俊 岡田健太 原一雄 吉田昌史 村上礼子
指導補助者	長谷川直人 馬場千恵子 鈴木美津枝 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 羽鳥智子 長谷部忠史

b. 学習目的

インスリン投与量の調整が必要な患者の病態および心理社会的特性を捉え、医師の包括的指示のもと、患者に安全かつ効果的な方法でインスリン投与量の調整を行うための実践的知識と技術を習得する。

c. 時間数

12 時間(5 日間)

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察評価 課題レポート

f. 科目取得状況

3/3 名

45 持続点滴投与中薬剤(降圧剤、カテコラミン、利尿剤、 K・Cl・Na、糖質輸液、電解質輸液)の病態に応じた調整 I

a. スタッフ

指導者	苅尾七臣 星出 聡 百村伸一 藤田英雄 坂倉建一 和田浩 讃井將満 塩塚潤二 川岸利臣 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 福田順子 神山淳子 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 梶原絢子 長谷部忠史

b. 学習目的

持続点滴投与中薬剤(降圧剤、カテコラミン、利尿剤、 K・Cl・Na、糖質輸液・電解質輸液)の病状に応じた調整に必要な知識と技術を学習する。

c. 時間数

48 時間(24 回)

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

筆記試験を行う。

f. 科目取得状況

4/4 名

46 持続点滴投与中薬剤(降圧剤、カテコラミン、利尿剤、 K・Cl・Na、糖質輸液、電解質輸液)の病態に応じた調整 II

a. スタッフ

指導者	苅尾七臣 星出 聡 百村伸一 藤田英雄 坂倉建一 和田浩 讃井將満 塩塚潤二 川岸利臣 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 福田順子 神山淳子 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 梶原絢子 長谷部忠史

b. 学習目的

持続点滴投与中薬剤(降圧剤、カテコラミン、利尿剤、 K・Cl・Na、糖質輸液・電解質輸液)の病態に応じた調整について、実施の可否の判断、実施・報告の一連のプロセスについて学習する。

c. 時間数

12 時間(5 日間)

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

臨床実習中の観察評価、実習終了時のレポート

f. 科目取得状況

4/4 名

#### 47 精神科薬物療法と看護Ⅰ(精神・神経症状にかかる薬物投与関連)

a. スタッフ

指導者	大塚公一郎 須田史朗 塩田勝利 安田学 佐藤伸秋 嶋崎晴雄 岡島美朗 齊藤慎之介 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 永井優子 石井慎一郎 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 長谷部忠史

b. 学習目的

精神科薬物療法を受けている人の臨時薬剤(抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬)の投与に関する判断に必要なアセスメントとケアについて理解する。

c. 時間数

46 時間(23 回)

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

最終回の筆記試験で 60%以上の成績を修めた者に単位を認定する。(ルーブリック参照)

f. 科目取得状況

2/2 名

#### 48 精神科薬物療法と看護Ⅱ(精神・神経症状にかかる薬物投与関連)

a. スタッフ

指導者	大塚公一郎 須田史朗 塩田勝利 安田学 佐藤伸秋 嶋崎晴雄 岡島美朗 齊藤慎之介 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 永井優子 石井慎一郎 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 長谷部忠史

b. 学習目的

精神科薬物療法を受けている人の臨時薬剤(抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬)の投与に関する判断ができる。

c. 時間数

12 時間(5 日間)

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

4/5 以上出席して、各回の実習に関する観察評価および作成したレポートの評価をうけ、最終回の評価面接時に、精神・神経症状にかかる抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬の臨時投与を安全に実施することができることを確認する(ルーブリック参照)。

f. 科目取得状況

2/2 名

#### 49 抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施 I

a. スタッフ

指導者	神田善伸 大嶺謙 村田哲 藤井博文 賀古真一 仲宗根秀樹 菊地美里 佐藤美樹 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 小原泉 山本真由美 飯塚由美子 奥田泰考 大木海美 長谷部忠史

b. 学習目的

抗癌剤等の皮膚漏出予防を含めた安全な取扱いと、医師の包括的指示のもとで皮膚漏出に対する薬理学的および非薬理学的対応を行うための根拠と方法を学習する。

c. 時間数

28 時間(14 回)

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

0/0 名

#### 50 抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施 II

a. スタッフ

指導者	神田善伸 大嶺謙 村田哲 藤井博文 賀古真一 仲宗根秀樹 菊地美里 佐藤美樹 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 小原泉 山本真由美 飯塚由美子 奥田泰考 大木海美 長谷部忠史

b. 学習目的

抗がん剤の皮膚漏出を程度・状況を判断し、医師の包括的指示のもとで皮膚漏出に対する薬理学的および非薬理学的対応を行うための実践的技術を学習する。

c. 時間数

12 時間(5 日間)

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

臨床実習中の観察評価、実習終了時のレポート

f. 科目取得状況

0/0 名

## 10 月期共通科目

### 51 臨床推論/フィジカルアセスメント I

#### m. スタッフ

指導者	松村正己 中村剛史 鈴木義彦 村上礼子
指導補助者	八木街子

#### n. 学習目的

多様な臨床現場において対象者が持つ問題を改善又は解決するために、臨床推論の概念や症状ごとの臨床推論過程(フィジカルアセスメント含む)について学修する。

#### o. 3)時間数

34 時間(17 回)

#### p. 研修方法

講義(e ラーニング)

#### q. 評価方法

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

#### r. 科目取得状況

27/27 名

### 52 臨床推論/フィジカルアセスメント II

#### m. スタッフ

指導者	松村正己 中村剛史 鈴木義彦 村上礼子
指導補助者	八木街子

#### n. 学習目的

対象者が持つ問題を改善又は解決するための診断プロセス・臨床推論に必要な各種臨床検査、画像検査の原理原則について学修する。

#### o. 時間数

26 時間(13 回)

#### p. 研修方法

講義(e ラーニング)

#### q. 評価方法

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

#### r. 科目取得状況

27/27 名

### 53 病態生理／疾病論 I

#### m. スタッフ

指導者	倉科智行
指導補助者	春山早苗 平尾温司 関山友子

#### n. 学習目的

解剖学、生理学および病態学の原則を理解し、年齢や状況に応じた病態の変化や治療の特性を包括的かつ迅速に判断出来るよう必要な知識と技術を学修する。

#### o. 時間数

42 時間 (21 回)

#### p. 研修方法

講義 (e ラーニング)

#### q. 評価方法

筆記試験

#### r. 科目取得状況

26/27 名

### 54 病態生理／疾病論 II

#### g. スタッフ

指導者	倉科智行
指導補助者	春山早苗 平尾温司 関山友子

#### h. 学習目的

臨床場面において日常的によくみられる主要疾患の病態および治療を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、病態の変化や疾患および必要となる治療を包括的に迅速に判断出来るよう必要な知識と技術を学修する。

#### i. 時間数

54 時間 (27 回)

#### j. 研修方法

講義 (e ラーニング)

#### k. 評価方法

筆記試験

#### l. 科目取得状況

27/29 名

## 55 臨床薬理学

### m. スタッフ

指導者	大塚公一郎 村上礼子
指導補助者	江角伸吾 須藤俊明

### n. 学習目的

臨床薬理学の基礎的知識を学習する。

薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理の向上を図るための知識と技術を学ぶ。

代表的な薬物療法について理解し、臨床場面で安全に使用するのに必要な知識を学習する。

### o. 時間数

42 時間 (21 回)

### p. 研修方法

講義 (e ラーニング)

### q. 評価方法

単元ごとに事後テストを行い、100 点満点をもって、次の単元に進む。

最終単元修了後、修了試験 (筆記試験) を受験する。修了試験は 100 点満点で、60 点以上の獲得をもって修了を設定し、科目の単位が獲得できる。

### r. 科目取得状況

26/29 名

## 56 医療安全学

### g. スタッフ

指導者	新保昌久 遠山信幸
指導補助者	川上勝 関山友子 浅田義和 寺山美華 亀森康子

### h. 学習目的

安全で質の高い特定行為を実施する上で必要な知識や考え方を身につける。

### i. 時間数

24 時間 (12 回)

### j. 研修方法

講義 (e ラーニング)、演習

### k. 評価方法

筆記試験 (最終回)

小テストまたは課題レポート (各回)

### l. 科目取得状況

25/27 名



## 57 特定行為と手順書

### g. スタッフ

指導者	新保昌久 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 関山友子 大柴幸子

### h. 学習目的

多様な臨床場面において、特定行為関連法規を踏まえ、特定行為の手順書を作成・活用・評価するための実践課程を理解し、必要な特定行為を安全に実践する能力を学修する。

### i. 時間数

30 時間(15 回)

### j. 研修方法

講義(e ラーニング)

### k. 評価方法

筆記試験

### l. 科目取得状況

27/28 名

## 58 特定行為と基礎実習 I

### g. スタッフ

指導者	松村正己 中村剛史 鈴木義彦 大塚公一郎 倉科智行 村上礼子
指導補助者	春山早苗 鈴木美津枝 川上勝 平尾温司 八木街子 関山友子 江角伸吾 浅田義和 須藤俊明

### h. 学習目的

チーム医療として実践するために必要な基礎的な臨床診断プロセスや診察技術について演習・実習を通して修得する。

### i. 時間数

38 時間(演習 10 回(うち試験1回)+実習 3 日間)

### j. 研修方法

講義(e ラーニング)

### k. 評価方法

e ラーニング演習の最終回は主に展開してきた事例検討の試験を行う。  
集合実習の事例展開の最終日に観察評価を行う。合格できるまで試験を受ける。

### l. 科目取得状況

26/26 名

## 59 特定行為基礎実習Ⅱ

### g. スタッフ

指導者	松村正己 石川鎮清 畠山修司 松山泰 石川由紀子 山本祐 中村剛史 新保昌久 永谷勝也 釜田康行 竹澤敬人 山内浩義 遠山信幸 菅原斉 藤田英雄 崎山快夫 真嶋浩聡 賀古真一 原一雄 小竹茂 森下義幸 小山信一郎 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 八木街子 亀森康子

### h. 学習目的

チーム医療の中で安全に特定行為を実践するための診察技術や臨床診断の基礎的能力を習得する。

### i. 時間数

25 時間(7 日間)

### j. 研修方法

実習

### k. 評価方法

観察評価:病棟・外来実習中に対象者の了解を経て、身体診察、医療面接、多職種との調整などの評価基準の確認を指導者より受ける。

### l. 科目取得状況

25/26 名

## 10 月期区分別科目

### 60 呼吸器関連 気道確保 I

s. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 川岸利臣 大塚祐史 間藤卓 米川力 太田真 富永経一郎 山黒友丘 渡邊伸貴 新庄貴文 布宮伸 方山真朱 小山寛介 村上礼子
指導補助者	八木街子 古島幸江 茂呂悦子 八巻均 谷島雅子 荒井和美 八木橋智子 草浦理恵

t. 学習目的

チーム医療の中で経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

u. 時間数

8 時間(4 回)

v. 研修方法

講義(e ラーニング)

w. 評価方法

筆記試験

x. 科目取得状況

5/5 名

### 61 呼吸器関連 気道確保 II

s. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 川岸利臣 大塚祐史 間藤卓 米川力 太田真 富永経一郎 山黒友丘 渡邊伸貴 新庄貴文 布宮伸 方山真朱 小山寛介 村上礼子
指導補助者	八木街子 古島幸江 茂呂悦子 八巻均 谷島雅子 荒井和美 八木橋智子 草浦理恵

t. 学習目的

チーム医療の中で安全にバッグバルブマスク(BVM)を用いた用手換気および経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

u. 時間数

15 時間(5 日間)

v. 研修方法

実習

w. 評価方法

観察試験:病棟実習中に対象者の了解を得て、身体診察、医療面接、他職種との調整などに関する評価基準をもとに指導医より確認をうける。実技試験 OSCE

x. 科目取得状況

5/5 名

## 62 呼吸器関連 人工呼吸療法 I

### g. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 川岸利臣 間藤卓 米川力 太田真 富永経一郎 山黒友丘 渡邊伸貴 新庄貴文 布宮伸 方山真朱 小山寛介 村上礼子
指導補助者	八木街子 古島幸江 八木橋智子 草浦理恵 茂呂悦子 八巻均 谷島雅子 荒井和美

### h. 学習目的

チーム医療の中で人工呼吸療法における人工呼吸器モードの設定条件の変更および NPPV(非侵襲的陽圧換気療法)時のモード設定条件の変更を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

チーム医療の中で人工呼吸療法における人工呼吸管理下の鎮痛・鎮静管理、人工呼吸器からの離脱を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

### i. 時間数

39 時間(20 回)

### j. 研修方法

講義(e ラーニング)

### k. 評価方法

筆記試験

### l. 科目取得状況

8/8 名

## 63 呼吸器関連 人工呼吸療法 II

### s. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 川岸利臣 間藤卓 米川力 太田真 富永経一郎 山黒友丘 渡邊伸貴 新庄貴文 布宮伸 方山真朱 小山寛介 村上礼子
指導補助者	八木街子 古島幸江 八木橋智子 草浦理恵 茂呂悦子 八巻均 谷島雅子 荒井和美

### t. 学習目的

チーム医療の中で安全に人工呼吸器モードの設定条件の変更および NPPV(非侵襲的陽圧換気療法)時のモード設定条件の変更を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

チーム医療の中で安全に人工呼吸管理下の鎮静管理、人工呼吸器からの離脱を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

### u. 時間数

24 時間(10 日)

### v. 研修方法

演習、実習

### w. 評価方法

観察試験:病棟実習中に対象者の了解を得て、人工呼吸療法に関する評価基準をもとに指導医より評価をうける

- x. 科目取得状況  
8/8 名

#### 64 呼吸器関連 長期呼吸療法

- g. スタッフ

指導者	佐々木徹 小野滋 馬場勝尚 讃井将満 塩塚潤二 川岸利臣 布宮伸 方山真朱 小山寛介 村上礼子
指導補助者	里光やよい 八木街子 黒田光恵 茂呂悦子 八木橋智子 草浦理恵

- h. 学習目的

チーム医療の中で安全に気管カニューレの交換を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

- i. 時間数

21 時間(講義 5 回+実習 3 日間)

- j. 研修方法

講義、実習

- k. 評価方法

筆記試験、実技試験 (OSCE)

観察試験:病棟実習中に対象者の了解を得て、気管カニューレの交換に関する評価基準をもとに指導医より確認をうける。

1. 科目取得状況

8/9 名

## 65 循環器管理関連(一時的ペースメーカー・PCPS 等) I

### s. スタッフ

指導者	百村伸一 藤田英雄 坂倉建一 和田浩 讃井将満 塩塚潤二 川岸利臣 星出聡 相澤啓 村上礼子
指導補助者	八木橋智子 草浦理恵 小久保領 八木街子 神山淳子

### t. 学習目的

一時的ペースメーカー安全に操作及び管理、抜去するための基本的な知識および方法を学習する。

### u. 時間数

22 時間(11 回)

### v. 研修方法

講義(e ラーニング)

### w. 評価方法

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

### x. 科目取得状況

4/4 名

## 66 循環器管理関連(一時的ペースメーカー・PCPS 等) II

### g. スタッフ

指導者	百村伸一 藤田英雄 坂倉建一 和田浩 讃井将満 塩塚潤二 川岸利臣 星出聡 相澤啓 村上礼子
指導補助者	八木橋智子 草浦理恵 小久保領 八木街子 神山淳子

### h. 学習目的

一時的ペースメーカー安全に操作及び管理、抜去するための基本的な知識および方法・態度を習得する。

### i. 時間数

24 時間(10 日間)

### j. 研修方法

演習、実習

### k. 評価方法

観察評価

### l. 科目取得状況

4/4 名

## 67 胸腔ドレーン管理関連 I

### g. スタッフ

指導者	遠藤俊輔 坪地宏嘉 手塚憲志 相澤啓 村上礼子
指導補助者	梶原絢子 八木街子

### h. 学習目的

胸腔ドレーンを安全に、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法を学習する  
胸腔ドレーン低圧胸腔内持続吸引中の設定・変更を安全に、かつ適切に実施するための基本的な知識・方法を学習する。

### i. 時間数

18 時間(9 回)

### j. 研修方法

講義(e ラーニング)

### k. 評価方法

最終単元において、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

### 1. 科目取得状況

2/2 名

## 68 胸腔ドレーン管理関連 II

### g. スタッフ

指導者	遠藤俊輔 坪地宏嘉 手塚憲志 相澤啓 村上礼子
指導補助者	梶原絢子 八木街子

### h. 学習目的

胸腔ドレーンを安全、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法・態度を学習する。  
低圧胸腔内持続吸引装置の安全、かつ適切な設定調整のための基本的な手技・態度を学習する。

### i. 時間数

12 時間(5 日間)

### j. 研修方法

演習、実習

### k. 評価方法

観察評価

### 1. 科目取得状況

2/2 名

## 69 腹腔ドレーン管理関連 I

### g. スタッフ

指導者	力山敏樹 宮倉安幸 齊藤正昭 倉科憲太郎 井上賢之 村上礼子
指導補助者	大島美津子 鈴木美津枝

### h. 学習目的

腹腔ドレーンを安全に、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法を学習する。

### i. 時間数

10 時間(5 回)

### j. 研修方法

講義(e ラーニング)

### k. 評価方法

最終単元において、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

### l. 科目取得状況

1/1 名

## 70 腹腔ドレーン管理関連 II

### g. スタッフ

指導者	力山敏樹 宮倉安幸 齊藤正昭 倉科憲太郎 井上賢之 村上礼子
指導補助者	大島美津子 鈴木美津枝

### h. 学習目的

腹腔ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および手技・態度を習得する。

### i. 時間数

12 時間(5 日間)

### j. 研修方法

実習

### k. 評価方法

観察評価:病棟実習では指導者から観察評価を受ける。

### l. 科目取得状況

1/1 名



## 71 ろう孔管理 I

### g. スタッフ

指導者	細谷好則 倉科憲太郎 井上賢之 小野滋 馬場勝尚 力山敏樹 宮倉安幸 加藤高晴 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 清水みどり 田口深雪 黒田光恵 佐藤敏子 大島美津子

### h. 学習目的

胃ろう, 腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを安全に交換・管理するための基礎的な知識および方法を学習する。

### i. 時間数

10 時間(5 回)

### j. 研修方法

講義(e ラーニング)

### k. 評価方法

筆記試験

### 1. 科目取得状況

3/3 名

## 72 ろう孔管理 II

### g. スタッフ

指導者	細谷好則 倉科憲太郎 井上賢之 小野滋 馬場勝尚 力山敏樹 宮倉安幸 加藤高晴 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 清水みどり 田口深雪 黒田光恵 佐藤敏子 大島美津子

### h. 学習目的

胃ろう, 腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを交換および管理するための基本的な知識, 判断と手技を修得する。

### i. 時間数

15 時間(5 日間)

### j. 研修方法

演習、実習

### k. 評価方法

OSCE

観察評価: 外来・病棟実習中に対象者の了解を経て, カテーテル・ボタン交換に関わる評価基準の確認を指導者より受ける。

### 1. 科目取得状況

3/3 名

### 73 ろう孔管理(膀胱ろうカテーテルの管理)Ⅲ

#### g. スタッフ

指導者	藤村哲也 黒川真輔 宮川友明 鷲野聡 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 田村敦子 田口深雪 大島美津子

#### h. 学習目的

1. ろう孔造設に関連する病態からの確に判断するための根拠と方法を学習する。
2. 膀胱ろうカテーテルを安全に管理するための基本的な知識および方法を学習する。

#### i. 時間数

10 時間(5 回)

#### j. 研修方法

講義(e ラーニング)

#### k. 評価方法

試験(毎回の事後テストの内容を筆記試験に充当させる)

評価の時期:講義終了後

#### 1. 科目取得状況

3/3 名

### 74 ろう孔管理(膀胱ろうカテーテルの管理)Ⅳ

#### g. スタッフ

指導者	藤村哲也 黒川真輔 宮川友明 鷲野聡 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 田村敦子 田口深雪 大島美津子

#### h. 学習目的

ろう孔管理Ⅲで学んだ知識とプロトコールに基づき、ろう孔管理技術の基本を学習する。

#### i. 時間数

15 時間(5 日間)

#### j. 研修方法

実習

#### k. 評価方法

OSCE

観察評価:外来実習中に対象者の了解を得て、評価基準の確認を指導者より受ける。

#### 1. 科目取得状況

3/3 名

## 75 栄養に係るカテーテル管理:中心静脈カテーテルの抜去 I

### g. スタッフ

指導者	相澤啓 讃井将満 塩塚潤二 川岸利臣 村上礼子
指導補助者	八木街子 神山淳子 八木橋智子

### h. 学習目的

中心静脈カテーテルの目的・管理・リスクを学び、安全に中心静脈カテーテルを抜去する方法を学習する。

### i. 時間数

6 時間(3 回)

### j. 研修方法

講義(e ラーニング)

### k. 評価方法

筆記試験

### l. 科目取得状況

4/4 名

## 76 栄養に係るカテーテル管理:中心静脈カテーテルの抜去 II

### g. スタッフ

指導者	相澤啓 讃井将満 塩塚潤二 川岸利臣 村上礼子
指導補助者	八木街子 神山淳子 八木橋智子

### h. 学習目的

中心静脈カテーテル抜去における評価と手技を修得する。

### i. 時間数

12 時間(5 日間)

### j. 研修方法

実習

### k. 評価方法

観察評価(DOPS)を用いて評価する。

### l. 科目取得状況

4/4 名

## 77 PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)の挿入 I

### g. スタッフ

指導者	大嶺謙 賀古真一 仲宗根秀樹 菊地美里 佐藤美樹 布宮伸 鯉沼俊貴 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 横山由美 大木海美

### h. 学習目的

PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)挿入の根拠と方法を学習する。

### i. 時間数

6時間(3回)

### j. 研修方法

講義(eラーニング)

### k. 評価方法

最終回に e-learning による筆記試験

### l. 科目取得状況

4/4名

## 78 PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)の挿入 II

### b. スタッフ

指導者	大嶺謙 賀古真一 仲宗根秀樹 菊地美里 佐藤美樹 布宮伸 鯉沼俊貴 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 横山由美 大木海美

### g. 学習目的

PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)を安全に挿入・管理するための基本的な知識および技術・態度を修得する。

### h. 時間数

15時間(5日間)

### i. 研修方法

実習

### j. 評価方法

3日目午前に OSCE による実技評価、最終日までに観察評価

### k. 科目取得状況

4/4名

## 79 創傷管理関連 褥瘡 I

### g. スタッフ

指導者	前川武雄 出光俊郎 川瀬正昭 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 本田芳香 飯塚由美子 太田信子 大島美津子

### h. 学習目的

褥瘡および創傷の病態からの確に判断するための根拠と方法を学習する。

### i. 時間数

27 時間(14 回)

### j. 研修方法

講義(e ラーニング)

### k. 評価方法

27 時間(14 回)

### l. 科目取得状況

12/12 名

## 80 創傷管理関連 褥瘡 II

### g. スタッフ

指導者	前川武雄 出光俊郎 川瀬正昭 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 本田芳香 飯塚由美子 太田信子 大島美津子

### h. 学習目的

チーム医療の中で安全に創傷管理を実践するための慢性期褥瘡治療管理および陰圧閉鎖療法の方法について実習を通して習得する。

### i. 時間数

45 時間(10 日間)

### j. 研修方法

講義(e ラーニング)、実習

### k. 評価方法

OSCE(壊死組織除去のみ)、観察評価((壊死組織除去、陰圧閉鎖療法)

### l. 科目取得状況

11/12 名

## 81 創部ドレーン管理関連 I

### g. スタッフ

指導者	山口敦司 堀大治郎 倉科憲太郎 井上賢之 藤田崇史 相澤啓 手塚憲志 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 大島美津子

### h. 学習目的

創部ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および方法を学習する

### i. 時間数

6 時間 (3 回)

### j. 研修方法

講義 (e ラーニング)

### k. 評価方法

筆記試験

### l. 科目取得状況

2/2 名

## 82 創部ドレーン管理関連 II

### g. スタッフ

指導者	山口敦司 堀大治郎 倉科憲太郎 井上賢之 藤田崇史 相澤啓 手塚憲志 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 大島美津子

### h. 学習目的

創部ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および方法・態度を修得する。

### i. 時間数

9 時間 (3 日間)

### j. 研修方法

実習

### k. 評価方法

観察評価

### l. 科目取得状況

2/2 名

### 83 動脈血液ガス分析 I

g. スタッフ

指導者	讚井將満 大塚祐史 間藤卓 米川力 太田真 富永経一郎 山黒友丘 渡邊伸貴 新庄貴文 布宮伸 小山寛介 鯉沼俊貴 村上礼子
指導補助者	八木橋智子 谷島雅子 鈴木美津枝

h. 学習目的

動脈血液を安全に採血し、留置ならびに管理するための基本的な知識および方法を学習する。

i. 時間数

16 時間(8 回)

j. 研修方法

講義(e ラーニング)

k. 評価方法

筆記試験

l. 科目取得状況

10/10 名

### 84 動脈血液ガス分析 II

g. スタッフ

指導者	讚井將満 大塚祐史 間藤卓 米川力 太田真 富永経一郎 山黒友丘 渡邊伸貴 新庄貴文 布宮伸 小山寛介 鯉沼俊貴 村上礼子
指導補助者	八木橋智子 谷島雅子 鈴木美津枝

h. 学習目的

動脈血液を安全に採血するための基本的な知識および技術・態度を修得する。

i. 時間数

15 時間(5 日間)

j. 研修方法

実習

k. 評価方法

実技試験(OSCE)・観察評価

l. 科目取得状況

10/10 名

## 85 透析管理 I

### g. スタッフ

指導者	森下義幸 大河原晋 平井啓之 宮澤晴久 齋藤修 村上礼子
指導補助者	佐竹晃 内田隆行 松岡諒 鈴木美津枝

### h. 学習目的

血液透析器又は血液透析濾過器を安全に操作及び管理を行うための基本的な知識および方法を学習する

### i. 時間数

16 時間 (8 回)

### j. 研修方法

講義(e ラーニング)

### k. 評価方法

筆記試験

### l. 科目取得状況

3/3 名

## 86 透析管理 II

### g. スタッフ

指導者	森下義幸 大河原晋 平井啓之 宮澤晴久 齋藤修 村上礼子
指導補助者	佐竹晃 内田隆行 松岡諒 鈴木美津枝

### h. 学習目的

急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理するための基本的な知識、判断と手技を修得する

### i. 時間数

12 時間 (5 日間)

### j. 研修方法

実習

### k. 評価方法

観察評価

### l. 科目取得状況

3/3 名



### 87 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連:持続点滴中の高カロリー輸液投与量の調整 I

g. スタッフ

指導者	石橋俊 倉科憲太郎 賀古真一 仲宗根秀樹 菊地美里 佐藤美樹 村上礼子
指導補助者	浜端賢次 八木街子 古内三基子 釜井聡子 荒川昌史 中川温美 長谷部 忠史

h. 学習目的

栄養評価を用いて低栄養状態がアセスメントでき、高カロリー輸液の適応と副作用・リスクについて学習する。

i. 時間数

10 時間 (5 回)

j. 研修方法

講義 (e ラーニング)

k. 評価方法

筆記試験

l. 科目取得状況

8/8 名

### 88 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連:持続点滴中の高カロリー輸液投与量の調整 II

b. スタッフ

指導者	石橋俊 倉科憲太郎 賀古真一 仲宗根秀樹 菊地美里 佐藤美樹 村上礼子
指導補助者	浜端賢次 八木街子 古内三基子 釜井聡子 荒川昌史 中川温美 長谷部 忠史

g. 学習目的

低栄養状態と高カロリー輸液のリスクをアセスメントし、適切な高カロリー輸液の選択と調整を学習する。

h. 時間数

9 時間 (3 日間)

i. 研修方法

演習、実習

j. 評価方法

観察評価 (DOPS を用いて評価する)

k. 科目取得状況

8/8 名

## 89 脱水と補液(脱水の程度の判断と補液による補正) I

### g. スタッフ

指導者	倉科憲太郎 森下義幸 大河原晋 平井啓之 宮澤晴久 村上礼子
指導補助者	浜端賢次 八木街子 古内三基子 釜井聡子 荒川昌史 中川温美 長谷部忠史

### h. 学習目的

脱水のアセスメントを行い、脱水の程度に合わせた補液の補正を学習する。

### i. 時間数

10 時間(5 回)

### j. 研修方法

講義(e ラーニング)

### k. 評価方法

筆記試験

### l. 科目取得状況

8/8 名

## 90 脱水と補液(脱水の程度の判断と補液による補正) II

### g. スタッフ

指導者	倉科憲太郎 森下義幸 大河原晋 平井啓之 宮澤晴久 村上礼子
指導補助者	浜端賢次 八木街子 古内三基子 釜井聡子 荒川昌史 中川温美 長谷部忠史

### h. 学習目的

脱水の適切な評価ができ、脱水の程度に応じた補液による補正を学習する。

### i. 時間数

9 時間(3 日間)

### j. 研修方法

演習、実習

### k. 評価方法

観察評価(DOPS)

### l. 科目取得状況

8/8 名

## 91 感染徴候時の臨時薬剤の投与 I (特定行為:感染に係る薬剤投与関連)

g. スタッフ

指導者	森澤雄司 小山信一郎 市橋光 村上礼子
指導補助者	野々山未希子 八木街子 渡辺美智代 大友慎也 佐々木一雅 水上由美子 立石直人 長谷部忠史

h. 学習目的

感染徴候時に、身体所見および検査結果から総合的に病状を判断し、効果的な臨時薬剤の投与を行う実践的知識と技術を習得する。

i. 時間数

39 時間(20 回)

j. 研修方法

講義(e ラーニング)、演習

k. 評価方法

筆記試験(中間、最終の 2 回行う)

l. 科目取得状況

2/2 名

## 92 感染徴候時の臨時薬剤の投与 II (特定行為:感染に係る薬剤投与関連)

g. スタッフ

指導者	森澤雄司 小山信一郎 市橋光 村上礼子
指導補助者	野々山未希子 八木街子 渡辺美智代 大友慎也 佐々木一雅 水上由美子 立石直人 長谷部忠史

h. 学習目的

感染徴候時に、身体所見および検査結果から総合的に病状を判断し、効果的な臨時薬剤の投与を行う実践的知識と技術を習得する。

i. 時間数

24 時間(10 日間)

j. 研修方法

演習、実習

k. 評価方法

実習の観察評価

l. 科目取得状況

2/2 名

### 93 インスリン投与量の調整 I

g. スタッフ

指導者	石橋俊 岡田健太 原一雄 吉田昌史 村上礼子
指導補助者	長谷川直人 馬場千恵子 鈴木美津枝 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 羽鳥智子 長谷部忠史

h. 学習目的

患者特性に応じた血糖コントロールを行うためのインスリン投与量の調整の根拠と方法を理解する。

i. 時間数

24 時間(12 回)

j. 研修方法

講義(e ラーニング)

k. 評価方法

筆記試験

l. 科目取得状況

2/2 名

### 94 インスリン投与量の調整 II

g. スタッフ

指導者	石橋俊 岡田健太 原一雄 吉田昌史 村上礼子
指導補助者	長谷川直人 馬場千恵子 鈴木美津枝 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 羽鳥智子 長谷部忠史

h. 学習目的

インスリン投与量の調整が必要な患者の病態および心理社会的特性を捉え、医師の包括的指示のもと、患者に安全かつ効果的な方法でインスリン投与量の調整を行うための実践的知識と技術を習得する。

i. 時間数

12 時間(5 日間)

j. 研修方法

演習、実習

k. 評価方法

観察評価 課題レポート

l. 科目取得状況

2/2 名

95 持続点滴投与中薬剤(降圧剤、カテコラミン、利尿剤、 K・Cl・Na、糖質輸液、電解質輸液)の病態に応じた調整 I

g. スタッフ

指導者	苅尾七臣 星出 聡 百村伸一 藤田英雄 坂倉建一 和田浩 讃井將満 塩塚潤二 川岸利臣 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 福田順子 神山淳子 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 梶原絢子 長谷部忠史

h. 学習目的

持続点滴投与中薬剤(降圧剤、カテコラミン、利尿剤、 K・Cl・Na、糖質輸液・電解質輸液)の病状に応じた調整に必要な知識と技術を学習する。

i. 時間数

48 時間(24 回)

j. 研修方法

講義(eラーニング)

k. 評価方法

筆記試験を行う。

l. 科目取得状況

4/4 名

96 持続点滴投与中薬剤(降圧剤、カテコラミン、利尿剤、 K・Cl・Na、糖質輸液、電解質輸液)の病態に応じた調整 II

g. スタッフ

指導者	苅尾七臣 星出 聡 百村伸一 藤田英雄 坂倉建一 和田浩 讃井將満 塩塚潤二 川岸利臣 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 福田順子 神山淳子 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 梶原絢子 長谷部忠史

h. 学習目的

持続点滴投与中薬剤(降圧剤、カテコラミン、利尿剤、 K・Cl・Na、糖質輸液・電解質輸液)の病態に応じた調整について、実施の可否の判断、実施・報告の一連のプロセスについて学習する。

i. 時間数

12 時間(5 日間)

j. 研修方法

演習、実習

k. 評価方法

臨床実習中の観察評価、実習終了時のレポート

l. 科目取得状況

4/4 名

## 97 精神科薬物療法と看護Ⅰ(精神・神経症状にかかる薬物投与関連)

g. スタッフ

指導者	大塚公一郎 須田史朗 塩田勝利 安田学 佐藤伸秋 嶋崎晴雄 岡島美朗 齊藤慎之介 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 永井優子 石井慎一郎 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 長谷部忠史

h. 学習目的

精神科薬物療法を受けている人の臨時薬剤(抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬)の投与に関する判断に必要なアセスメントとケアについて理解する。

i. 時間数

46 時間(23 回)

j. 研修方法

演習、実習

k. 評価方法

最終回の筆記試験で 60%以上の成績を修めた者に単位を認定する。(ルーブリック参照)

1. 科目取得状況

2/2 名

## 98 精神科薬物療法と看護Ⅱ(精神・神経症状にかかる薬物投与関連)

g. スタッフ

指導者	大塚公一郎 須田史朗 塩田勝利 安田学 佐藤伸秋 嶋崎晴雄 岡島美朗 齊藤慎之介 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 永井優子 石井慎一郎 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 長谷部忠史

h. 学習目的

精神科薬物療法を受けている人の臨時薬剤(抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬)の投与に関する判断ができる。

i. 時間数

12 時間(5 日間)

j. 研修方法

演習、実習

k. 評価方法

4/5 以上出席して、各回の実習に関する観察評価および作成したレポートの評価をうけ、最終回の評価面接時に、精神・神経症状にかかる抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬の臨時投与を安全に実施することができることを確認する(ルーブリック参照)。

1. 科目取得状況

2/2 名

## 99 抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施 I

### g. スタッフ

指導者	神田善伸 大嶺謙 村田哲 藤井博文 賀古真一 仲宗根秀樹 菊地美里 佐藤美樹 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 小原泉 山本真由美 飯塚由美子 奥田泰考 大木海美 長谷部忠史

### h. 学習目的

抗癌剤等の皮膚漏出予防を含めた安全な取扱いと、医師の包括的指示のもとで皮膚漏出に対する薬理学的および非薬理学的対応を行うための根拠と方法を学習する。

### i. 時間数

28 時間(14 回)

### j. 研修方法

講義(e ラーニング)

### k. 評価方法

筆記試験

### l. 科目取得状況

2/2 名

## 100 抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施 II

### g. スタッフ

指導者	神田善伸 大嶺謙 村田哲 藤井博文 賀古真一 仲宗根秀樹 菊地美里 佐藤美樹 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 小原泉 山本真由美 飯塚由美子 奥田泰考 大木海美 長谷部忠史

### h. 学習目的

抗がん剤の皮膚漏出を程度・状況を判断し、医師の包括的指示のもとで皮膚漏出に対する薬理学的および非薬理学的対応を行うための実践的技術を学習する。

### i. 時間数

12 時間(5 日間)

### j. 研修方法

演習、実習

### k. 評価方法

臨床実習中の観察評価、実習終了時のレポート

### l. 科目取得状況

2/2 名

## 2) 研究報告

### 教職員

#### ・受賞

2018 年度ベスト・ムードル・オープン・コース賞 佳作賞

Best Moodle Open Courseware of 2018 Honorable Mention

「看護師遠隔学習 Moodle オリエンテーション」“Moodle Orientation for a Remote Learning Course for Nurses”

#### ・雑誌

1. 八木(佐伯)街子, 村上礼子, 鈴木美津枝, 讚井将満, 石川鎮清, 春山早苗, 簗田清次: 特定行為に関わる看護師の研修の受講ニーズ調査—施設規模による傾向の違い—. 看護展望, 43(11);1094-1101.
2. 鈴木美津枝, 川上勝, 村上礼子, 三科志穂, 八木(佐伯)街子: 外科的デブリードマン練習用パッドの開発と教育評価. 自治医科大学看護学ジャーナル, 16; 9-14, 2019.

#### ・学会発表

1. 第 15 回日本褥瘡関東甲信越地方会学術集会. (2018 年 7 月 27 日～28 日: ソニックシティ, 埼玉県さいたま市)  
村上礼子, 鈴木美津枝, 川上勝, 前川武雄, 太田信子, 八木(佐伯)街子. 看護師に係る特定行為研修における外科的デブリードマン教材の開発
2. 第 50 回日本医学教育学会大会. (2018 年 8 月 3 日～4 日: 東京医科歯科大学, 東京都文京区)  
八木(佐伯)街子, 鈴木美津枝, 村上礼子. 特定行為に係る看護師の研修での e ポートフォリオの効果
3. 日本教育工学会第 34 回全国大会. (2018 年 9 月 28 日～30 日, 東北大学川内キャンパス, 宮城県仙台市)  
八木(佐伯)街子, 鈴木美津枝, 村上礼子, 都竹茂樹, 中野裕司, 鈴木克明. 看護師の遠隔学習を支援するオリエンテーションの設計
4. 第 13 回日本ルーラルナーシング学会学術集会 (2018 年 11 月 3～4 日: かがわ国際会議場, 香川県高松市)  
村上礼子, 八木街子, 鈴木美津枝. 看護師特定行為研修における実践教育への ICT 活用の有効性  
村上礼子, 鈴木美津枝, 八木街子, 江角伸吾, 関山友子, 春山早苗. 特定行為研修の研修方法の現状と遠隔地の受講可能性に関する課題.  
八木街子, 鈴木美津枝, 村上礼子. 看護師の遠隔学習を支援するトライアルコースの検討
5. 第 38 回日本看護科学学会学術集会 (2018 年 12 月 15～16 日: ひめぎんホール, 愛媛県松山市)  
八木(佐伯)街子, 鈴木美津枝, 村上礼子, 埴田真彰, 岡野朋子, 春山早苗. 特定行為に係る看護師の研修の受講ニーズ調査・施設規模による傾向の違い・



## 研修生

### 学会発表

- ・日本在宅医学会 第20回記念大会 (2018.4.29-30 グランドプリンスホテル新高輪国際館パミール 東京都港区高輪)  
木工達也. 看護師特定行為を実際にやってみて～栃木県東部における どこでも の取り組み～.

### その他

- ・平成30年度 山形県自治体病院講演会(2019.2.8 山形市保健センター及びホテルメトロポリタン山形)  
神田美由紀. 地域のニーズに応えるチーム医療を目指して ～特定行為を行う看護師の立場から～